

## 湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2017年度概要

——流域活動団体連携コース：金目川水系の今後——

藤野 裕弘\*・室田 憲一\*・落合 由紀子\*・日比 慶久\*

### 1. はじめに

人類社会の持続的存続には、環境問題を広い視野から考え、問題の解決に向けて行動できる人材の育成が必要である。そのような人材育成には、人文・社会・自然科学の垣根を越えた学際的で実践的な教育プログラムの構築が極めて重要となる。その中でも実践的な環境教育への期待は大きく、2000年には国連における日本主導の「持続可能な開発のための教育の10年」がスタートし<sup>1)</sup>、日本では環境教育の推進を目的とした「環境保全活動・環境教育推進法」が2003年に成立した<sup>2)</sup>。

東海大学では、環境分野における学際的な人材の育成とその成果を、地域社会に還元することを目的の一つとした環境憲章を1997年に発表している<sup>3)</sup>。また、教養学部では、広い視野を持った人材を育成するため、学部共通科目を段階的に履修させ、実践系科目に結び付ける学部共通領域を構築している。さらに、教養学部人間環境学科自然環境課程では、自然科学系と人文・社会科学系カリキュラムを融合させた人間環境領域（総合環境科学系）を構築し、人間環境に関わる様々な問題を、人文・社会・自然科学の枠にとらわれない広い視野から考え、問題解決に向けて行動できる人材の育成を目的に、実践的な環境教育プログラムが用意されている<sup>4,5)</sup>。この特徴的な環境教育プログラムは、2011年度の日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育委員会21期提言の中で引用されるに至っている<sup>6)</sup>。こうした背景のもと、我々は、様々な体験型環境教育プログラムを実施してきた<sup>7-45)</sup>。また、この湘南里川づくり地域共生プロジェクトは、2012年度から実施している<sup>46-52)</sup>。

今回は、教養学部共通実践科目である人間学2「湘南里川づくり地域共生プロジェクト：流域活動団体連携コース」の2017年度実施概要について報告する。

---

受理日2018年11月28日

\*教養学部人間環境学科

## 2. 目的及び実施概要と結果

「湘南里川づくり」は、湘南地域のふるさとの川である金目川水系流域の自然や文化、くらしを地域の貴重な財産として次世代を担う子どもたちに引き継いでいくために、市民（湘南里川見守り隊）と行政の協働により河川等の保全・活用に取り組む活動のことである。本プロジェクトは、流域団体の活動をネットワーク化し、「湘南里川づくり」を流域全体に広めるこの活動と連携する。学生は、それら流域団体の連携を図る目的で実施する「湘南里川づくりフォーラム」に企画段階から参加し、実際にフォーラムの運営に携わる。

具体的には、履修学生が、「湘南里川フォーラム2018」の企画・運営に参加する。学生は、湘南里川づくりみんなの会のフォーラム担当幹事と複数回の企画打合せを行い、表1の実施計画概要を取りまとめた。その後、担当割に従い準備を進め、2月4日（日）にフォーラムを実施した。参考として、学生が企画作成した広報用ポスターを図1に示す。

実施当日の一般参加者は150名であった。午前の基調講演は吉村伸一氏（株式会社 吉村伸一流域計画室 代表取締役）が担当したが、その様子（図2）は基調講演概要にまとめた。また、分科会の様子他（図3～10）は、分科会概要にまとめた。当日は、参加者のうち、60名からアンケートを回収した。その集計結果の一部は、表2にまとめた。

表1 湘南里川フォーラム2018実施概要

|                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日：2018年2月4日（日）                                                                   |
| 開始時間：10:00 開会式（09:30 開場）～16:00 閉会                                                  |
| 開催場所：東海大学湘南校舎 13号館 13-201 教室<br>（プログラム）                                            |
| 09:30 開場（13-201 教室）                                                                |
| 10:00 開会式                                                                          |
| 10:10 基調講演 吉村伸一氏（株式会社吉村伸一流域計画室 代表取締役）<br>『治水と環境の統合技術としての多自然川づくり～河川空間の豊かさの再生を目指して～』 |
| 11:20 分科会プログラム                                                                     |
| ①湘南里川づくりみんなの会～今後の活動展開に関して～                                                         |
| ②キラキラ光る金目川を目指して                                                                    |
| ③長期的に見た地域活性化～金目川水系の今後～                                                             |
| ④水と人を結ぶ～金目川水系の歴史を踏まえて～                                                             |
| 12:50 昼食休憩（ポスターセッション）                                                              |
| 14:00 分科会成果報告                                                                      |
| 14:30 全体意見交換                                                                       |
| 16:00 閉会                                                                           |



図1 学生が作成した広報用ポスター

### 3. 基調講演概要(吉村伸一氏)

テーマ：治水と環境の統合技術としての多自然川づくり～河川空間の豊かさの再生を目指して～

#### ● 河川はどのように計画され作られてきたか？

近年の河川整備計画のもっとも重要な目的は、洪水流量を安全に流すことであった。農業基盤整備や都市の発展とともに、河川は治水対策を第一命題として整備がすすめられ、今日の河川環境を形作ってきた。多くの河川では、大量の洪水流を処理できるようにするため、雑草が生え河畔林が茂っていた盛土の護岸を、コンクリート護岸などにより直線化し素早く洪水を海に流すような計画が進められてきた。このような機能主義のすべて悪いわけでないが、本来の川づくりはそうでなかった。

環境面からの見直しから、平成2年に国土交通省から「多自然型川づくりの推進について」の通達が出され、様々な工夫や試行錯誤を繰り返しながら治水機能と環境を両立させようとする



図2 基調講演の様子

る試みがなされてきた。しかしながら、河川本来の自然特性を十分理解しない計画など安易な形だけの多自然型河川も出現するようになった。

2006年10月には、そうした実態を踏まえた自然川づくり基本方針が出され、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、川が本来有している生物の良好な成育環境に配慮し、美しい自然景観の創出・保全を目指すことが示された。

### ● 多自然づくり

多自然川づくりの通達がだされ28年たったが、多自然川づくりに沿って整備された川に立ってみても、これが多自然型の川だと実感できるものがなかった。治水対策が第一の命題であったため、よい川を作るという視点に欠けていた。

よい川とは何か？

川は洪水によって作られてきた。洪水に攪乱されるのが川の本質である。それを人間の都合で、機能重視で整備してきた。これまでは、景観をデザインするという視点がなかった。東京大学の篠原教授は景観デザインを河川の開発にも取り入れてきた。川を単純化してはいけない。川が作ってくれる複雑な形を考慮した川づくりが必要だ。子供のころから豊かな川との付き合いができる河川環境を作ることが大事である。

何を目指して河川整備をするか？ 溢れない川を作る？ より良い川・よりよい街を作る。川と生活がつながった空間を作る。溢れない川はよい川の一つの条件でしかない。

### ● 多自然川づくりの事例

(多自然川づくりの事例について多数紹介された。ここではそのうちのいくつかについて記述する。)

倉敷川の例：歴史を感じさせる町の風格がある。人と水との付き合いが作ってきた景観を今



日に伝えている。川と暮らしとが寄り添ってできてきた。

柳川の例：柳川を埋め立てる計画があったが、埋めたら地下水の環境が変化し地盤沈下が始まる可能性がある。川があるから地盤沈下が始まらない。そこで、みんなで掘割を守った。30年たって今、観光の名所となって経済的にも潤っている。

吉村氏が横浜市に在職していた時の横浜市のいたち川の例：いたち川を河川改修により直線護岸し川幅を3倍に広げることにより洪水をなくした。しかしこの河川の景観を見てこれがよい川と呼べるだろうか？ 植物の生える環境を創出するために河床を掘り下げ、土壌が流されないようにヨシなどを植え景観を改善した。

曳地川：河川と公園を一体化した整備の例。河川と公園をつなぐことによって、市民が自然の豊かさを感じられる景観が生まれた。

梅田川・三保念珠坂公園（横浜市）：公園と川をつなぐ設計 法面で子供たちがそり遊びをできる場が生まれた。

これらの河川整備事業にみられるように、町全体が豊かになるように、各部署が連携してものづくりに取り組んでいくことが必要である。河川設計では機能面を重視した定規断面が採用されてしまうことがあるが、自然環境、景観への配慮が大事である。また、河川整備の計画が上流と下流でバラバラな思想でなされていることがある。部分的な河川整備計画を進めるのではなく、豊かな川にしていくためには流域全体で調和がとれているように進めていくことが大事である。より川らしい川のためには、邪魔者として扱われる河畔林の活用についても目を向けていく必要がある。

## ● 多自然川づくりの経緯

1990年11月の多自然型川づくりの通達（建設省）から始まった。

吉村氏は1980年代にドイツの河川整備を学び取り組んできた。

整備マニュアルを作らないでみんなで考えるというやり方でスタートしたが、個々の河川整備の成果にばらつきが目立つようになり、多自然川づくりのマニュアルが整備されてきている。河川ごとに何を守るべきかを決め、川幅拡幅の原則・流速を増加させないなどを基本とし計画を進めていく。中小河川では片側拡幅を原則とし、どこを残すか川を多面的に検討し、環境変化を最小にする。こうした計画により、工事費が最小になる。

淵は河川環境の中でも重要であり、控え土手で保全し守る。中小河川は川床を平らにする整備が一般的に採用されているが、淵を残すように整備すべきである。会計検査にとおりやすくするための工法が採用されている・魚類の生息のためにふちが重要である。生き物のゆりかごを作る。

いい川、川の周りに広がる風景が大事である。

和泉川関ヶ原の水辺（横浜市の例）：宮沢遊水地

非常時のデザイン、非常時のデザインを統合化した治水と環境を統合して考えられたデザインをする。よい川づくりにはデザイン力がものをいう。住民と一緒に考え、住民が使い込んでいく。10年後、20年後の変化を楽しむ。川幅、洪水断面で決めてきたが、街づくりの視点を含

めて決めていく。

## 質疑

### ・和泉川での生き物観察会

このところ水質が悪くなってきた。経年変化の観察の必要性である。

### ・気象変動，流量の増大 遊水地をもっと作るべきと思っているか？

横浜市内の川は堺川と鶴見川を除き，市内で完結。遊水地がある程度あってそれが機能している。

### ・下水道整備により川がきれいになってきた。

子供たちが遊べる環境となってきた。

### ・横浜市，30%の緑地目標，流域に残っている緑地をどう残していくか？

横浜市は借りるという手法で対応してきている。また，相続問題が発生したとき買い取っている。緑地保全法だけで対応するだけでなく，多面的に進めている。

### ・市街地河川において，生物多様性についてどのように進めるのか？

自然本来の地形を考慮して，デザインから入っている。空間的に街の中にどう残していくかを中心に取り組んでいる。生物については専門外。人を主体とした空間設計に主眼を置いている。

### ・里川でなんなんだろう？ 吉村氏が考える里川とは？

住んでいる人と川がつながる関係をよくしていくのが里川づくり，里川づくりに係る行為が大切。周りの人に活動が見えるようにしていくことが大事である。

外人部隊（九州大学島谷先生）は東京の善福寺川で里川づくりの可能性を検討する活動を行ってきている。善福寺川を里川に変える会（善福カエル会）。ゴミ拾い，川ガール地域の人が楽しめる活動も大事である。

## 4. 分科会概要

### 分科会1 「湘南里川づくりみんなの会～今後の活動展開に関して～」

担当コーディネーター：藤野裕弘・小巻慎吾他見守り隊会員

【概要】 湘南里川づくりみんなの会が目指すビジョンを達成するためには，これまでの活動を超えたさらに積極的で具体的な活動が求められている。これから我々はどうのような活動を行い，市民活動として発展させていったらよいかについて意見交換を行った。

まず，具体的活動のためには，明確な目標設定が必要という意見があった。

- 目的をはっきりさせ，具体的な活動をし，個人，団体会員の多くの参加を得る。
- 里川という言葉の定義は多様だが，里川づくりの目標をきれいな水，自然・生物が豊か，ゴミがない，子供が遊べる，地域の人との密接なつながりのある川など市民が求めるものに設定する。

○ 会員個々の点の目的は明確なので、その点をどうしたいのかをはっきりさせるなどの意見があった。

また、活動の方向性として、

- 里川づくりの意義を感じていない9割の人を動かす活動をする
- 自然を宝とし、それを観光資源として地域活性化を図る
- 地域で活動をしている方の声を拾い、活動につなげていく
- 世の中に見える活動をしていく必要がある

というように、会員の中だけでなく、広くみんなの会の活動が知れ渡るような活動を行うことが多くの市民の関心と呼び、行政に対してもアピールできるとの意見があった。

具体的にどのような活動ができるかについて、

- 多地域のロータリークラブが川の一斉清掃をして交流できるようなイベントを里川づくりの一環としてコーディネートする。
- 市民向けの川の一斉清掃をコーディネートする。

など、多くの市民を巻き込んだ川のごみ拾いという活動が目に見えてわかりやすいということで提案された。一方で、

- ゴミ拾いでも短期的なものではなく、地域の住民が継続的にできるような長期的な目線での活動につなげる必要がある。

という意見があり、短期から長期までの幅広い目標設定にあわせた活動が考えられるが、どれを優先すべきかについて考える必要があるとの意見もあった。

コーディネーターより、今後の会の活動が楽しい活動だけではなく、里川づくりのビジョンの啓発を含めたものにならないければ、里川づくりのすそ野を広げることにならない。地域の河川改修などがあつたら多自然型の川づくりへの声をあげられるような地域を作っていくことが



図3 分科会1の様子

理想であり、私たちの会がそのよりよい形を提案できるようになることが集大成なのではないか、との話があった。参加者からは、

- これからの活動は里川づくりの会のしくみを考えて、行政のそれにふさわしい担当部署にかかわってもらうことで積極的な活動につながる。ここで話した具体的な提案内容を実現するための検討会として、地域フォーラムが開催されてほしい

との意見があった。

分科会1では、これまで協議会としての性格が強かったみんなの会であるが、これからはビジョンの達成のために積極的にみんなの会として行動を起こしたい、起こしてほしい、との方向性が確認できた。

## 分科会2 「キラキラ光る金目川を目指して」

担当コーディネーター：柳川三郎

### 【概要】

#### (1) 西岡氏より以下の報告がなされた。

- ①金目川水系流域ネットワークの紹介、かながわ地球環境賞の受賞報告
- ②金目川流域水系と自然環境を支える水環境
- ③金目川水系の地表水の様子、水田開発と金目川の水循環
- ④森林は、裸地に比べ3倍もの水を蓄える  
森林(258) > 草地(128) > 裸地(79)
- ⑤森林により、過剰な窒素やリンを吸収すると共に、Ca, Naなどを土壌に増やす

#### (2) 府川氏より以下の報告がなされた。

- ①金目川水源の春嶽山は、日量800トン
- ②金目川は全長21 km を経て、相模湾に至る
- ③金目川のアユ、ボウズハゼ、ニホンウナギが生息

#### (3) 参加者からの提案意見等

- ・下水処理の整備と河川整備で川がキレイになって魚は増えてきたが、一方では、キレイな水は栄養分が少なくなり、河川整備による流れの変化等で、魚にとっては棲みづらい環境になっている心配がある。
- ・下水処理場は川の浄化に効果あるが、排出される水温が4℃程度高い、影響ないか
- ・魚道を作るよう行政に提案したい
- ・昔より、農業用水としての利用は減少したはずなので、治水政策も見直しを提案

#### (4) まとめ報告(柳川氏)

- ①東海大学と一緒に実施している金目川・親子生き物観察会が定着しつつあり、地域の親子が楽しみにしてくれているのが嬉しい。子どもと親の世代は、将来の環境保全への大切な層となるのが期待できる。
- ②9年前から金目川下流を中心とした清掃活動を継続。次回も3月に予定。



③川と地域のふれあいが良い方向にあると感じている。

④神奈川県は海岸のMP（マイクロプラスチック）調査を本格化する計画があり，協力していきたい。

### 分科会3 「長期的に見た地域活性化～金目川水系の今後～」

担当コーディネーター：大崎雄介・石井孝佳・的場陽斗・吉岡弥幸・関雄  
(東海大学 教養学部人間環境学科自然環境課程)

#### 【概要】

まず，本フォーラムの大テーマである「金目川水系の今後」という言葉を聞いて，我々は「人」「川」「地域」「関わり」「自然」等の単語を連想した。それらは全て「地域活性化」に繋げることができるとし，分科会Ⅲのテーマとした。実際の発表では，金目川水系を長期に渡り活性化するためには若者の興味を引くようなイベントを企画する必要があるということを，他の水系で実際に行われているイベントの例を挙げながら提案し，議論した。

#### 【分科会の流れ】

##### ① 学生による発表

金目川水系が活性化するには多くの人に興味をもってイベントに参加してもらうことが重要だと考えた。また，長期的に地域を活性化させるためにはサイクルの継続的な循環が必要であるとの意見でまとまった。そのサイクルとは，「川」を利用したイベントを開催し，少しでも多くの人に足を運んでもらい，そして，「川」に関心を持ってもらうことである。それにより，BBQ やウォーキング，写真などで地域に人達が日常的に川を利用するようになると考えた。それが先輩から後輩へ，親から子へと世代を超えてつながり，後世へと広がることで，次のイベントへ来るきっかけにもなる。この「イベント」「関心」「日常の利用」「後世に伝える」というサイクルを継続的に続けていくことで，長期的に地域が活性化すると考えられる。

このサイクルを継続するために，より川へ関心を持ってもらうイベントの提案を行う。



図4 分科会3 発表の様子

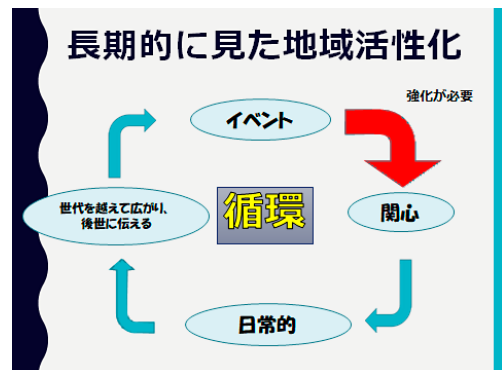


図5 イベントの循環図



図6 分科会Ⅲ議論の様子

## ② 当日行われた議論

議論の際の意見は大きく分けて2種類であった。1つは、分科会Ⅲの発表では、イベントで「人を呼ぶ」ことに重きを置きすぎているのではないかということであった。現在、金目川水系で行われている「アジサイ祭り」や「さくら祭り」の来客数は年々増加傾向にあることから、「人を呼ぶ」部分よりも「関心を持ってもらう」部分に力を入れた提案をして欲しいということである。2つ目の意見は、イベントに力を入れるのは良いが、その前段階にも力を入れて欲しいということであった。現在、川に関心を持っている会員は高齢者が多く、イベントの前に行う草刈りが重労働で、若い世代の人の力を借りたいとのことである。それらの意見を踏まえて、まずは我々がそういったイベントに参加してみる必要があるということでもとまった。また、イベントの前段階の草刈りについては、情報発信をどのような形で行うか、という事についても議論した。その内容は、今どきの若者はTwitterやFacebook、lineといったSNSを多く利用していることから、草刈り等の情報発信もSNSを活用すれば良いのではないかと、いうものである。また、若者を引きつける方法として、イベントに付加価値を付けてみてはどうか、という意見も提示された。

最終的な結論としては、まず我々自身がイベントに参加することで、河川の保全に対する意識を深め、課題を見つけ、解決に向けて行動することが重要と考えられた。

### 【まとめ】

我々の発表は、どのようなイベントを企画・開催すれば人が集まるのか、という部分に着目したものである。しかしながら、参加者側からは「もっと具体的な提案」をして欲しいとの意見が提示された。また、発表や議論を通して「川への関心」や「若者の参加」が重要であることが分かった。従って、人が楽しいと感じ、若手の関心を引き、継続していくことが可能な活動を企画することが、金目川水系における里川づくりにつながるのではないかと考えられた。

#### 分科会4 「水と人を結ぶ～金目川水系の歴史を踏まえて～」

担当コーディネーター：長田啓祐・祝嶺涼太郎・佐藤克哉・小佐野博史・大沼直輝・三條場菜々（東海大学 教養学部人間環境学科自然環境課程）

##### 【概要】

本分科会では、金目川水系の歴史などを調査し、この歴史を踏まえた金目川の様々な魅力をどう地域住民や、より多くの人々に伝え、興味を持ってもらえるのかについて検討した。

そこで、現代社会において若者を中心とした多くの人々に利用されている SNS（Social Networking Service）を活用し、金目川の魅力について発信することで、それを見た多くの人々に金目川に興味を持ってもらうことができ、金目川の今後につながるのではないかとという提案をし、議論を行った。

##### 【分科会の流れ】

##### ① 学生による発表

我々は、金目川の今後について考えるということで、まず、金目川水系のこれまでの歴史と現状について調査することにした。金目川は江戸時代から人々に利用され続けてきた一方で、比較的急流であるなどの問題から、たびたび洪水が発生し「暴れ川」などと呼ばれていたということ、そこで人々は水神様を祭り、水の恵みに感謝し、洪水除けを祈念してきたということである。つまり、金目川水系には非常に人とつながりがある興味深い歴史や、水神様などの魅力的なものが現存しているということである。

しかしながら、調査の過程では、金目川水系の情報が少なく、地域の人をはじめ、多くの人々にあまり知られていないという現状があるという感触を得た。

そこで、現在若者を中心に多くの人々に利用されている、SNS を活用することにより、多くの人々に金目川水系について知ってもらい、興味を持ってもらうことで、金目川水系の今後につながるのではないかとという提案を行った。

また、SNS の一つである Twitter を実際に使い金目川水系の風景や水神などを投稿した結果



図7 実際に使ってみると

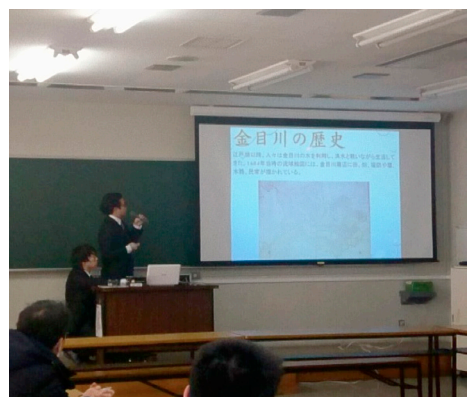


図8 分科会4発表の様子



図9 分科会4議論の様子①



図10 分科会4議論の様子②

や、SNS が実際に地域復興につながったという事例なども紹介した。

## ② 当日行われた議論について

今回の提案に対して議論を行った結果、様々な提案や意見が提示された。特に、SNS での魅力の発信について、多くの意見が出された。まず、なかなか多くの人に投稿が広まらないという問題があるということ、そしてこの問題に対して SNS などのデジタルな方法だけでなく、チラシやポスターなどアナログな方法での拡散や、他の団体と連携することにより、多くの人々に宣伝することができるのではないかという意見が提示された。次に、発信したい対象が金目川水系の地域の人々なのか、それとも日本人、あるいは日本に観光などに来る外国人なども視野に入れたものなのかがどうか分かりづらいという意見も出された。さらに、投稿を見てもらった人たちに興味を持ってもらった後はどうするか、たとえば川に関連したイベントなどを開くなど今後の展開について考えるべきではないかという意見も提示された。

また、今後発信すべき金目川の魅力については、金目川は農産物が多く、歴史も長いといった魅力や、都市部に近い市に多くの自然が残っているという魅力などが挙げられた。また、具体的に魅力的な場所として秦野市にある髭僧の滝や葛葉緑地などが挙げられた。

## 【まとめ】

SNS を活用して金目川水系の魅力を伝えるという提案に対して、対象の人々がはっきりとしていない点や確実により多くの人々に伝える具体的手段が無い点などの問題が挙げられた。しかしながら、SNS を活用していくこと自体は、現代の若者にあった新しい提案であり、今後活用していけるのではないかという結論に至った。また、興味を持ってもらった後、それを具体的な行動につなげる工夫が重要であるという意見で一致した。



表3 「湘南里川づくりフォーラム2018」アンケート結果

(アンケート回答者：60名)

|     | 区分   | 回答数 | %  |
|-----|------|-----|----|
| 住まい | 平塚市  | 21  | 35 |
|     | 秦野市  | 21  | 35 |
|     | 伊勢原市 | 7   | 12 |
|     | その他  | 7   | 12 |
|     | 無回答  | 4   | 19 |

|    | 区分  | 回答数 | %  |
|----|-----|-----|----|
| 性別 | 男性  | 47  | 78 |
|    | 女性  | 10  | 17 |
|    | 無回答 | 3   | 5  |

|    | 区分    | 回答数 | %  |
|----|-------|-----|----|
| 年代 | 10代未満 | 0   | 0  |
|    | 10代   | 0   | 0  |
|    | 20代   | 1   | 2  |
|    | 30代   | 3   | 5  |
|    | 40代   | 3   | 5  |
|    | 50代   | 6   | 10 |
|    | 60代   | 14  | 23 |
|    | 70代   | 31  | 52 |
|    | 無回答   | 2   | 3  |

今回のイベントを何で知ったか？ (複数回答可)

| 選択肢            | 回答数 |
|----------------|-----|
| 公民館掲示のポスター、チラシ | 17  |
| 知人や家族のお誘い      | 11  |
| 県のたより          | 7   |
| 市の広報誌          | 7   |
| その他            | 20  |

今回のフォーラムに参加した理由 (複数回答可)

| 選択肢               | 回答数 |
|-------------------|-----|
| 「湘南里川づくりに興味をもったから | 26  |
| 地域の自然や環境に興味があったから | 38  |
| 知人や家族に誘われて        | 10  |
| 開催場所が参加しやすい場所だったら | 15  |
| その他               | 10  |

| 今回のフォーラムの感想                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |     | 印象に残ったものは？ (複数回答可)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 選択肢                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 回答数 | 選択肢                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 回答数 |
| よかった                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 40  | 基調講演                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 37  |
| ふつう                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 11  | 意見交換会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 6   |
| よくなかった                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 2   | 分科会①                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 4   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>意見交換会で組織作りに関する議論をしていたが何をするかということがなかった</li> <li>吉村先生の話は小河川のすばらしい具体例であった</li> <li>行政の安全第一主義と生活環境との違いがわかった</li> <li>基調講演は参考になった</li> <li>里川の理想形が示されていた</li> <li>学生が研究室でまとまって主催していた</li> <li>詳しい方をセミナー講師に招いていた</li> <li>行政の担当者にそれぞれの部署に知識を持ち帰り、自然を活かした河川づくりを目指してほしく、その良いきっかけとなった</li> <li>土木のエンジニア側からの具体的な多く自然川づくりの話を聞いた</li> <li>基調講演が良かった</li> <li>学生からのプレゼンが良かった</li> <li>分科会Ⅳに参加して学生の声がきけて良かった</li> <li>吉村先生の河川の話が面白かった</li> <li>退屈を感じた</li> <li>基調講演と分科会Ⅱで金目川をきれいにする愛情を感じた</li> <li>地域に密着したテーマで大変有意義なフォーラムであった</li> <li>吉村先生の話がわかりやすく、スライドも良かった</li> <li>整備をすることが重要だということがわかった</li> </ul> |     | 分科会②                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 5   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     | 分科会③                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 4   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     | 分科会④                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 2   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     | ポスター展示                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 7   |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>話がとてもわかりやすかった</li> <li>景観の概念を多自然型川づくりに追加されて実施され、実現されたこと</li> <li>充実した内容だった</li> <li>酒米試食、刃物研ぎが面白く、有意義だった</li> <li>河川域が自然に戻るとごみの投棄が増える問題がある</li> <li>川でつながる人を目指すまちづくり</li> <li>河川の現状を知れた</li> <li>川側面の緑地化する工事対応が良い</li> <li>行政に対して意見をいうことが大事だと思いました</li> <li>学生の発表はわかりやすく、よく研究されまとめられたと感じました</li> <li>藍染めが楽しかった</li> <li>各団体の発表はいつも感心している</li> <li>学生の発表に拍手を送りたい、具体的な行動につなげてほしい</li> <li>写真や解析が良くできていた</li> <li>学生の研究発表が良かった</li> <li>基調講演に感動した</li> </ul> |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |     |



## 成果の公表

「湘南里川フォーラム2018」の実施そのものが成果の発表の場であるが、その他に「湘南里川づくりみんなの会」のホームページに掲載されている。

〈[http://www.satokawa.com/koremade/koremade\\_20110917.html](http://www.satokawa.com/koremade/koremade_20110917.html)〉

加えて、神奈川県ホームページに、この里川ホームページへの公式リンクサイト 〈<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6546/p18537.html>〉が設定されている。

## 謝辞

この教育研究の一部は、2017年度の教育研究補助金により実施された。関係各位並びに参加院生及び学生に、感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) ESD-J 特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育の10年推進会議 <http://www.esd-j.org/>
- 2) 環境省総合環境政策局環境教育推進室, 環境教育・環境学習, 環境保全活動 <http://www.env.go.jp/policy/edu/>
- 3) 東海大学環境憲章 <http://www.u-tokai.ac.jp/ems/kankyokensyo.htm>
- 4) 藤野裕弘・内田晴久・松澤宏・小林一夫:「企業のCSR活動と連携した実践系授業の展開(1) — CSRと大学院授業との連携—」. 2010年度日本環境教育学会第21回大会研究発表要旨集, pp. 156 (2010).
- 5) 藤野裕弘:「地域社会と連携した体験型環境教育の試み〜東海大学の実践例〜」. 私立大学環境保全協議会会誌, 第15号, 19-24 (2012).
- 6) 日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育委員会21期提言:「高等教育における環境教育の充実に向けて」. 2011年9月22日.
- 7) 室田憲一・藤野裕弘 他: NPOと連携した体験学習型教育の試み. 2003年度日本環境学会第29回研究発表会講演要旨集, pp. 178-180 (2003).
- 8) 室田憲一・藤野裕弘 他: NPOと連携した体験学習型教育の試み. 東海大学紀要教養学部, 第34輯, 331-333 (2003).
- 9) NPO 法人自然塾丹沢ドン会編集: 名古木の自然—丹沢の雑木林・棚田の復権と生き物たち, 夢工房, 神奈川, pp. 63 (2003).
- 10) 藤野裕弘・内田晴久 他: 環境NPOと連携した体験学習型環境教育の試み(1). 2004年度日本環境学会第30回研究発表会講演要旨集, pp. 84-85 (2004).
- 11) 室田憲一・藤野裕弘 他: 環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(1). 東海大学紀要教養学部, 第35輯, 271-276 (2004).
- 12) 室田憲一・藤野裕弘 他: 環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2). 2005年度日本環境学会第31回研究発表会講演要旨集, pp. 240-243 (2005).
- 13) 室田憲一・藤吉正明 他: 環境NPOと連携した体験学習型教育の試み—農業体験事例報告—. 東海大学紀要教養学部, 第36輯, 1-11 (2005).

- 14) 北野忠・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～SPPを利用した具体的取り組み例～. 東海大学紀要教養学部. 第36輯. 13-21 (2005).
- 15) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2). 東海大学紀要教養学部. 第36輯. 249-255 (2005).
- 16) 北野忠・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～SPPを利用した具体的取り組み例～. 2006年度日本環境教育学会第17回研究発表会講演要旨集. pp.146 (2006).
- 17) 藤野裕弘・藤吉正明 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(3). 東海大学紀要教養学部. 第37輯. 247-252 (2006).
- 18) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(1)―乗船体験実習―. 2007年度日本環境教育学会第18回大会研究発表要旨集. pp.65 (2007).
- 19) 室田憲一・藤吉正明 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(2)―農業体験実習―. 2007年度日本環境教育学会第18回大会研究発表要旨集. pp.66 (2007).
- 20) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(4). 東海大学紀要教養学部. 第38輯. 271-278 (2007).
- 21) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み(1)～初等中等教育との連携を中心に～. 東海大学紀要教養学部. 第38輯. 279-285 (2007).
- 22) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(5). 東海大学紀要教養学部. 第39輯. 289-294 (2008).
- 23) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み(2)～初等中等教育との連携を中心に～. 東海大学紀要教養学部. 第39輯. 295-301 (2008).
- 24) 藤野裕弘・内田晴久 他：環境NPOと連携した体験実習型環境教育の試み(6). 東海大学紀要教養学部. 第40輯. 365-370 (2009).
- 25) 内田晴久・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み(3)～初等中等教育(SSH)との連携を中心に～. 東海大学紀要教養学部. 第40輯. 371-377 (2009).
- 26) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(1)～. 東海大学紀要教養学部. 第41輯. 309-313 (2010).
- 27) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(1)～. 東海大学紀要教養学部. 第41輯. 315-328 (2010).
- 28) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(2)～. 東海大学紀要教養学部. 第42輯. 297-304 (2011).
- 29) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(2)～. 東海大学紀要教養学部. 第42輯. 305-312 (2011).
- 30) 藤野裕弘・青木靖・松澤宏：企業のCSR活動と連携した実践系授業の展開(ISO14001の活用). 東海大学紀要教養学部. 第43輯. 15-22 (2012).
- 31) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(3)～. 東海大学紀要教養学部. 第43輯. 329-339 (2012).
- 32) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(3)～. 東海大学紀要教養学部. 第43輯. 341-349 (2012).
- 33) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(4)～. 東海大学紀要教養学部. 第44輯. 269-278 (2013).
- 34) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に(4)～. 東海大学紀要教養学部. 第44輯. 279-284 (2013).
- 35) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境NPOとの連携を中心に(5)～. 東海大学紀要教養学部. 第45輯. 355-367 (2014).

- 36) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（５）～．東海大学紀要教養学部．第45輯．369-372（2014）．
- 37) 北野忠・小栗和也 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（６）～．東海大学紀要教養学部．第46輯．237-242（2015）．
- 38) 岩本泰・藤野裕弘 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（６）～．東海大学紀要教養学部．第46輯．227-235（2015）．
- 39) 藤野裕弘・岩本泰 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第46輯．243-252（2015）．
- 40) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（７）～．東海大学紀要教養学部．第47輯．311-314（2016）．
- 41) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（７）～．東海大学紀要教養学部．第47輯．315-328（2016）．
- 42) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第47輯．329-337（2016）．
- 43) 藤野裕弘・内田晴久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（８）～．東海大学紀要教養学部．第48輯．303-315（2017）．
- 44) 藤野裕弘・日比慶久 他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（８）～．東海大学紀要教養学部．第48輯．317-323（2017）．
- 45) 藤野裕弘・日比慶久 他：大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討．東海大学紀要教養学部．第48輯．325-334（2017）．
- 46) 藤野裕弘・二宮洋 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～ふるさとの川を次世代に継承する：2012年度概要～．東海大学紀要教養学部．第44輯．285-295（2013）．
- 47) 藤野裕弘・二宮洋 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～ふるさとの川を次世代に継承する：2013年度概要～．東海大学紀要教養学部．第45輯．373-387（2014）．
- 48) 藤野裕弘・室田憲一：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2014年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系が目指す里川らしさ～．東海大学紀要教養学部．第46輯．275-287（2015）．
- 49) 藤野裕弘・落合由紀子 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2015年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～．東海大学紀要教養学部．第47輯．351-373（2016）．
- 50) 藤吉正明・高木俊之 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～流域遊休地活性化コース：藍植物の栽培と染色～．東海大学紀要教養学部．第47輯．375-379（2016）．
- 51) 藤野裕弘・室田憲一 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト：2016年度概要～流域活動団体連携コース：金目川水系の今後～．東海大学紀要教養学部．第48輯．349-369（2017）．
- 52) 藤吉正明・隈本純 他：湘南里川づくり地域共生プロジェクト～流域遊休地活性化コース：水田での酒米栽培～．東海大学紀要教養学部．第48輯．371-376（2017）．